

第 106 回 薬剤師国家試験問題検討委員会

「実務」部会報告書

2021 年 6 月 14 日

日 時 2021 年 5 月 15 日(土) 13:00～16:30

場 所 WEB(ZOOM)会議

出席者

私立大学	58 校	89 名
国公立大学	15 校	19 名
計	73 校	108 名

委員長名	三宅 勝志
所属大学名	広島国際大学

1. 総合評価

問題文を読み解くことで臨床において求められる問題解決能力をはかる良問が増えていると考えられる。一方、解答に必要な情報不足、症例設定における現実性・細部における矛盾なども散見された。また、処方や処方箋に関する問題では正確な医薬品名の記載が求められるとともに、薬品名の表記に対して一定の基準を示す必要があると思われる。問題の出題範囲として、添付文書への記載があるとは言え、細かい部分の知識を問うような問題、実務との関連性が少なく各専門領域での問題と考えられるも問題も散見された。今後、臨床現場においてガイドラインにそった薬物治療を学ぶ機会が増えることで、添付文書では適応外使用となる問題をどのように扱うかは今後の課題と考える。

2. 各項目の評価

1) 誤りがあると判断された問題

問 320:ジヒドロコデインリン酸塩を含むかぜ薬については、平成 29 年より 12 歳未満の小児の用法用量は削除されているため、問題に誤りがある。

2) 問題の観点から不適切である問題

問 83:DNAR については、単に言葉の意味だけを問うことよりも、本当の意味を正しく理解してもらう方が重要である。

問 199: 臨床を意識させる良問とも考えられるが、実習で遭遇する可能性が低い事項に関する問題であり選択肢より解答を導き出せる。

問 203: 臨床で想定される問題だが、MRI の解説は診療放射線技師の担当と考えられる。診療放射線技師より薬剤師に問い合わせがあった旨のリード文があれば良問と考えられる。

問 206: 血清 K 値 5.6 であれば排便状況確認よりも、テルミサルタン継続確認が優先されるべき事項である。腎機能低下時において使用する便秘薬として MgO は不適切と考える。また、高度便秘の副作用が報告されている経口ゼリー剤 A (アーガメイトゼリー) を追加薬とするのは適切ではない。

問 212: 実務において構造式から薬剤を選択するケースは極めてまれであるため、実務領域の出題には違和感がある。

問 214: 認知症疾患診療ガイドラインにおいて抑肝散は認知症の BPSD の陽性症状を抑えることが記されているものの、添付文書では記載がなく適応外使用だと思われる。しかし、実務実習で学修する医薬品の使用方法に限ってはガイドラインに記載があれば問題ないと考える。

問 216: プラミペキソール添付文書において、選択肢 3 の暴食（過食）の副作用は、その他の副作用欄に「精神神経系の副作用 0.1%未満の発現頻度」として記載がある程度である。薬剤師国家試験で問う問題としては極めて希少な症例であり、難易度が高いと思われる。

問 219: 本設問では、レボチロキシンを服用していても胎児への影響を心配する必要がないことを前提にした出題だとは思われるが、妊娠初期の状態においても $TSH < 2.5 \mu U/mL$ が望ましく、主文では TSH が $20.0 \mu U/mL$ と高値であり病態が安定するまではひとまず妊娠を避けることが望ましいのは明らかである。したがって、選択肢 2 の表現は適切とはいえない。

問 220: 高尿酸血症は尿酸排泄低下型、産生過剰型、腎外排泄低下型、混合型に分類される。高尿酸血症・痛風治療ガイドラインでは型によって薬剤を選択することが推奨されている。しかし、問題には型の判断指標である尿中尿酸排泄量、尿酸クリアランスが記載されておらず、ベンズプロマロンへの変更が適切か判断できない。選択肢 4 のアロプリノールは併用禁忌薬ではないため、分類型によっては正解となりうる。

問 227: 高齢者用肺炎球菌ワクチンのみ、筋肉注射可能であることを問う出題は細かすぎる。

問 228: 選択肢 4 ベンゾジアゼピン系薬はせん妄などのリスクとなり得ると言われている中で代替薬としてロルメタゼパムは適切とは言えない。

問 239: 治療に用いた薬剤の種類から、間接的に正解を導くことは可能だが、ホルモン療法などが禁忌である可能性がないとは考えにくい。

問 242: PET/CT の際の食事のとり方につて、薬剤師が説明するケースは少ないと考える。

問 251: 急性扁桃炎はペニシリン系が第 1 選択薬であるので、マクロライド系薬の出題が不適切である。また、併用注意の組み合わせとして、トリプタン系薬は連日服用ではないのでマクロライド系薬に疑義照会が必要か疑問である。

問 257: 血清ナトリウムを確認してからトルバプタンを提案するべきである。

問 267: クレアチニンクリアランス推定式 (CG 式) を暗記していなければ解答できない問題が過去にも散見されるが、式の暗記が求められるべきか疑問である。

問 274: 市販後調査は RMP が実施されている場合、後発品でも該当する場合があるため選択肢の内容が不適切である。

問 302: 乳がんの七次治療の場面を国家試験として設定されるのは好ましくない。

問 328: 電解質輸液としては、知っておくべき基本的事項であるが、大学でこれらすべてを教えられるかという疑問がある。実習先ですべてのラインナップを揃えている病院ばかりではないので、実習先で触れる機会は均一でないかもしれない。

問 330: ザイデイスの特性としてメーカーが主張しているが、効果が明らかでない吐き出し防止効果を出題対象とすることには疑問がある。

問 343: エソプラメゾールカプセルを服用して差し込むような胃痛が起きて相談に来局した場合は、一般

用医薬品のブチルスコポラミン臭化物の提案ではなく、なるべく早めに受診するように勧める受診勧奨が必要であり、問題として不適切と考えられる。

3) 問題・選択肢の表現が不適切である問題

問 85:「投与中に、血清ナトリウム値に注意が必要な薬物はどれか。」は、「投与中、血清ナトリウム値の変動に注意が必要な薬剤はどれか。」が適切と考えられる。

問 88:吸入後の息止めについて、タービュヘイラー製剤のみ吸入後の息止めは不要となっている。通常息を止めないでください、という指導は行わないが、該当しない製剤があることから設問の表現としては検討が必要と考えられる。

問 89:設問内容と選択肢は(否定)と(行為の否定)という組合せなので、受験者を混乱させるのではないかと考えられる。

問 90:選択肢 5 は、不適切ではないが、「クリティカルパス」よりも「クリニカルパス」の方が一般的である。

問 197:選択肢に記載されている対応を行うためには、情報が不足している(最終月経からの日数など)。リード文(生理が遅れている)と選択肢 1(月経周期が順調であったか確認する)に乖離がある。

問 206:経口ゼリー剤 A について薬品名を伏せる必要はない。問 207 を考えると、一般名を表記するほうが望ましい。便秘に対する医薬品が処方されている患者に対し、排便状況を確認することは当然のことであり、選択肢として適切とは言えない。

リード文『～を追加した』⇒『が追加となった』の方が適切である。

問 210:服用忘れ時の対応は次回服用までの時間により異なるため、選択肢 2 の記述では不十分である。

問 212:実務領域で出題するならば、薬物名または薬剤の特徴も併記する必要がある。

問 216:レボドパ・カルビドパ配合錠の副作用に眠気や暴食、トリヘキシフェニジルの副作用に眠気があるため、『処方 3』に限定した選択肢は不適切である。

問 220:選択肢の表現を統一するほうが望ましい。選択肢 2 に合わせ、選択肢 3 は増量してくださいが適切である。

問 232:HUS の診断は複合的な所見により行われるものであり、間接ビリルビン値が全ての患者で低い訳ではなく時間経過でも異なるものとする。

問 236: δ -アミノレブリン酸濃度を測定する意義はわかるが、その基準値まで、薬学生として知っておくべきなのか。リード文に基準値を示す必要がある。

問 240:LDL-C の数値が基準値上限付近なので、もう少し数値を高くするべきと考える。また、コレステロール値よりも血圧高値が目に行くため、検査値の設定を考えるべきである。

問 242:近年、メトホルミンは腸への FDG 集積を高めるとの報告があり、PET/CT の 48 時間前にメトホルミンを中止するよう指示する施設も散見される。よって選択肢 1 が適切とも考えられる。選択肢 1 を不正解選択肢とするのであれば、「検査 2 日前のみ」とすべきと思われる。

問 245：問 244 の選択肢 1 と問 245 の選択肢 4 は、実質的に同じことを問うている。

問 246：薬品名称の表記について、バルプロ酸ナトリウム徐放錠 A または B と局方名で表記することが適切である。

問 251：医薬品の正式名称はエトトリプタン臭化水素酸塩錠である。

問 253：リード文から、錐体外路症状、低血糖症状が評価が難しい。

問 255：患者の腎機能からプレガバリンの処方量を評価する際は、減量を優先するのが臨床では一般的であると思われるため、中止するという表現は不適切である。

問 258：リード文が吸入剤を選択するよう示唆しているので容易に解答できる。

問 260：腎機能低下時にロスバスタチンの投与量に注意するが、ロスバスタチンが最大量で処方されており患者背景に疑問がある。

問 267：セベラマー塩酸塩の適応は「透析中の慢性腎不全患者における高リン血症の改善」である。リード文では「血液透析は実施していない」症例になっている。

問 270：相互作用によるワルファリンの出血リスクは患者指導ではなく、疑義照会を行う必要がある。また、手足症候群は「発現に注意するよう」指導するのではなく、対処方法を指導すべきである。レジメン名称の表記について、XELOX はガイドラインでは CAPOX または CapeOX と表記されている。

問 273：選択肢 5 の表記について抗真菌薬治療の必要性がリード文に記載されていない。また、アムホテリシン B リポソーム製剤と併用注意であり、腎機能検査を行いながら併用できる組み合わせである。

問 277：末梢神経障害等の出現時、絶対に減量や休薬が必要でない場合もあるため、解答しにくい。

問 279：リード文及び複合問題 278 の記述内容から、別ルートで投与したほうがよいことが容易に解答できる。

問 285：1 回の欠食が食事の内容に影響するか不明である。また、不自然に GFJ が選択肢に出てくるので容易に解答できる。

問 286：「最も適切」と表現があるが、患者情報などが多少不足しているため、「優先的に投与」といった記載の方が表現としては適切ではないか。

問 289：症例問題とするのであれば、身長、体重、eGFR などの患者情報が記載してある方がより良いと思われる。

問 291：解答には影響しないが、LDH の検査値が高値であるとしながらも、正常範囲内と考えられる値 (184IU/L) が記載されている。

問 293：解答には影響しないが、13 歳で 127cm という患者データは平均値よりかなり低く、成長障害を疑わせる。

問 295：ピラスチン錠は添付文書上、自動車運転等についての注意喚起はないが、副作用に眠気があるため、実臨床では必ずしも間違いと言えない。また、コンタクトレンズや点眼液に関する内容を問うのであれば、設問中の点眼液の用法や添加物について記載される事が望ましい。

問 296：MIC の単位は「ppm」ではなく、「 $\mu\text{g/ml}$ 」である。また、感受性「Sensitive」ではなく、「susceptible」である。実務実習での経験の有無に左右されると考えられ、難易度が高い。

問 299: 症例問題とするのであれば、 β -D グルカンの検査値などが記載してある方がより良いと思われる。

問 301: 解答には影響しないが、家系図が国際ルールとは異なるため、準拠する事が望ましい。

問 302: FN 発現時の対応を問う問題であるが、まず day1 の時点で、好中球 $820 < 1000$ であり添付文書上、投与延期に該当する。また七次治療である事、臨床所見での重症度の記載などもなく、体重以外の必要な検査値が設問上に記載されておらず、選択肢 5 の PPN や皮下輸液が「適切」な根拠が希薄である。「検討すべき治療」であれば、該当すると考えられる。

問 303: 「インヒビター」という専門的な用語を患者説明に用いるのはふさわしくないのではないかと。

問 310: 添付文書の内容把握のみを問う問題であり、本症例にダラツムマブでの治療が適切かどうかも含め、国家試験には不適切な問題ではないかと。

問 313: タモキシフェンの服用期間は一般的に「5 年」→「5～10 年」である事、「シクロフォスファミド」→「シクロホスファミド」、「生殖補助技術」という専門的な用語を患者説明に用いている事など、不適切な記載や曖昧な記載が複数見られる。その中で、休薬期間について 1 ヶ月か 2 ヶ月の違いを問うのは困難な問題と考えられる。

問 316: 用量を問う問題なので解答には影響しないが、テオフィリンとクラリスロマイシンの相互作用も疑義照会すべき内容となり得るので、別の薬剤が望ましい。

問 325: 解答には影響しないが、「吐き気」とあるが、「激しい嘔吐」の記載の方がより適切と考えられ、また「腹痛」、「下痢」などの症状の追記が望ましい。

問 326: 実質的に問題はないが、可能であればエベロリムスの疾患名又は治療名は「心臓移植における拒絶反応の抑制」とした方が、より適切であったと考えられる。

問 331: 図 B の方法では、バイアルから引き抜くまでに針先が液内を通り、過剰に薬液を採取してしまう可能性があり、不適切ともとれる。また、選択肢 5 と図 B が合っていないのではないかと考えられる。

問 333: 正答が麻薬事故届を届け出るという問題なのに、設定が「麻薬の誤投与」というアクシデントなので、場面設定が適切ではないと考えられる。

問 334: 「ファモチジン塩酸塩錠」は存在しない。薬理では塩の有無は問題にならないが、実務の国家試験問題ではこの世に存在しない医薬品名は使用しないでほしい。また、問題文の、力が入りにくくなったとの訴えだけでは、情報が少なく、また偏りがあるのではないかと考える。検査値を見ているので、 Mg^{2+} を測定していないのは明らかなのでマグネシウムに関しては、「血清マグネシウム値の確認」ではなく、「血中マグネシウム濃度の測定の提案」の方がよいのではないかと考える。

問 335: 選択肢 2 は、病院ではリスクマネジメントとして可能だが、保険薬局では応需医療機関の処方依存するため、名称類似薬剤だからといって、採用から外すことは出来ないのではないかと考える。

問 336: 出題に関するエビデンスに疑問がある(嗔声を防ぐのにエアゾールに変更するとよいという点)。消去法で解答可能との意見もあるが、国家試験問題としては適切ではないと考える。

問 337: A 型ボツリヌス毒素を眼瞼瘻れんに使用することや次亜塩素酸ナトリウムで不活化することまでは教えている大学があるが、調製方法や保管方法までは教えていないことが多い。実務実習で経験することが大

切な内容であるが、これを病院実習で経験できる学生ばかりではなく、国家試験問題としては公平性に欠ける可能性がある。

問 341:消去法であれば選択肢 3 が選べるので正答率が高くなっているが、テオフィリンの血中濃度測定の提案までは可能と考えられるが、情報量が少なく「休薬」まで提案できる問題となっているかについては疑問がある。

問 342:「麦粒腫」の場合、まつ毛の根元にできるものとまぶたの内側にある小さな皮脂腺にできるものが考えられる。そのため、眼軟膏の使用は目の中に入れる場合に限らない。この場合も下眼瞼のため、解答選択肢の使用方法を求める場合は眼軟膏の眼内への使用が確実な傷病の方が適切だと考えられる。

問 344:患者の質問が、「この薬は飲み始めてからどれくらいで効いてくるのか」であり、解答は効果が安定するまでの日数である。効いてくるのはもっと早いと考えられる。

問 345:この問題は、入院患者だけではなく全ての患者に適用されるため、入院患者に限定することには疑問がある。

4)「複合性が不適切である問題」

複合性が認められない

問 216、問 210、問 274

解答に際して前問を正解することが必要な問題

問 206、問 258、問 260、問 264、問 270、問 286

5)「授業で教えた内容か」

問 83:DNAR については教えていない大学が多いが、救急時に薬剤の中止・選択を考えることは必ず薬剤師に降りかかる大切な問題であり、今後は大学で教えるべき内容である。

問 197:判定後の対応までは教えていない大学が多い。

問 242: PTE/CT と薬剤師の関わりについては、詳細には教えていない大学が多い。

問 248: でレストレスレッグス症候群の適応症まで教えていない大学が多く、難易度が高いと思われる。

問 251: 併用注意の組合せ（トリプタン系薬とマクロライド系薬）については、授業で教えていない大学が多い。

問 326: エベロリムスまでは教えていない大学が複数ある。

問 336: 嘔声を防ぐのにエアゾールに変更するとよいという明確なエビデンスが無いため、教えていない大学が多い内容である。

6) その他特記事項(薬剤師国家試験として高く評価できた問題を含めて)

- 以下の問題は国家試験として良問と判断された問題

問 197、問 199、問 200、問 205、問 245、問 253、問 269、問 280、問 286、問 289

- ・ 複合問題については実務と無関係とはいえないが、他の領域での出題がより適切と判断された問題が散見された。(問 212、問 232、問 240、問 245)
- ・ 問題の適切性を判断するために禁忌肢の公開を望む声が多かった。

3. 各問題の評価

別紙 1 のとおり

別紙 1 第106回薬剤師国家試験問題「実務」部会 評価表

	番号	誤り			適切性			表現			授業で教えて		
		ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
必須 問題	81	0	73	0	1	70	2	0	71	2	0	73	0
	82	1	72	0	0	72	1	0	72	1	0	73	0
	83	0	72	1	0	63	10	1	69	3	15	45	13
	84	0	73	0	0	68	5	1	71	1	3	51	19
	85	0	71	1	1	71	1	1	69	2	1	67	4
	86	0	72	0	1	71	0	1	71	0	2	67	3
	87	0	72	0	0	72	0	0	72	0	1	71	0
	88	0	72	0	0	72	0	2	70	0	1	70	1
	89	0	73	0	0	72	1	3	70	0	2	69	2
	90	0	73	0	0	73	0	1	71	1	0	72	1

	番号	誤り			適切性			表現			複合性			授業で教えて		
		ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
複 合 問 題	197	0	72	1	2	68	3	4	67	2	1	70	2	21	28	24
	199	0	73	0	0	73	0	3	69	1	1	71	1	21	36	16
	200	0	73	0	0	73	0	1	71	1	0	70	3	3	65	5
	203	0	73	0	0	71	2	0	73	0	2	70	1	7	53	13
	205	0	72	0	1	70	1	1	71	0	3	66	3	2	64	6
	206	1	71	1	5	68	0	6	64	3	1	71	1	2	61	10
	208	2	70	0	2	70	0	6	65	1	0	70	2	0	68	4
	210	1	72	0	1	72	0	2	68	3	1	70	2	1	65	7
	212	0	73	0	6	59	8	6	64	3	0	67	6	3	64	6
	214	0	72	1	4	68	1	3	68	2	0	73	0	6	59	8
	216	0	72	1	2	68	3	6	63	4	0	72	1	3	61	9
	219	1	72	0	0	73	0	3	70	0	1	71	1	5	63	5
	220	1	72	0	0	72	1	4	68	1	1	71	1	1	68	4
	222	1	71	1	4	68	1	3	68	2	0	73	0	2	70	1
	225	0	73	0	0	73	0	2	69	2	0	3	0	4	54	15
	227	0	73	0	1	71	1	1	71	1	1	72	0	7	46	20
	228	0	73	0	1	72	0	0	73	0	0	72	1	4	60	9
	230	0	73	0	0	72	1	1	72	0	0	72	1	3	59	11
	232	0	71	2	1	68	4	1	68	4	0	72	1	8	45	20
	234	0	71	2	1	71	1	0	71	2	0	71	2	3	53	17
	236	0	73	0	1	71	1	0	73	0	0	73	0	3	57	13
	239	0	73	0	1	69	3	0	71	2	0	72	1	3	57	13
	240	0	72	1	1	71	1	2	69	2	0	72	1	8	51	14
	242	1	72	0	1	68	4	2	68	3	0	71	2	6	51	16
	245	0	73	0	2	71	0	0	72	1	1	71	1	5	65	3
	246	1	72	0	1	69	3	3	69	1	0	70	3	1	68	4
	248	0	73	0	4	66	3	2	69	2	0	70	3	7	53	13
	251	3	69	1	3	69	1	5	68	0	0	71	2	5	58	10
253	0	73	0	1	72	0	2	70	1	0	71	2	3	70	0	
255	1	70	1	2	68	2	3	66	3	0	70	2	2	65	5	
257	1	71	1	2	69	2	3	66	4	0	71	2	5	56	12	
258	0	72	0	1	71	0	4	66	2	1	71	0	1	65	6	

	番号	誤り			適切性			表現			複合性			授業で教えて		
		ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
複 合 問 題	260	0	73	0	1	70	2	1	71	1	1	72	0	1	66	6
	263	1	71	1	3	68	2	4	68	1	0	72	1	8	59	6
	264	1	71	1	2	70	1	1	71	1	1	72	0	3	61	9
	267	0	72	0	0	71	1	1	71	0	2	67	3	2	67	3
	269	0	71	0	0	71	0	2	67	2	1	70	0	2	63	6
	270	0	72	0	1	70	1	2	69	1	1	71	0	0	67	5
	273	0	71	0	2	68	1	2	67	2	1	70	0	3	63	5
	274	2	65	5	6	63	3	6	58	8	1	70	1	1	66	5
	277	0	72	0	0	72	0	2	70	0	0	71	1	2	58	12
	279	0	72	0	1	71	0	1	71	0	0	72	0	2	65	5
	280	0	72	0	0	72	0	0	72	0	0	71	1	3	63	6
	283	0	72	0	0	72	0	0	71	1	0	71	1	4	56	12
	285	0	71	0	0	71	0	0	69	2	0	70	1	2	59	10
	286	0	71	1	1	69	2	2	69	1	0	72	0	1	69	2
	289	1	70	1	1	69	2	0	70	2	0	71	1	3	63	6
	291	0	72	0	1	71	0	1	70	1	0	72	0	4	60	8
	293	0	72	0	1	71	0	1	71	0	0	71	1	2	64	6
	295	0	72	0	1	69	2	6	62	4	0	70	2	3	51	18
	296	1	71	0	3	62	7	5	66	1	0	70	2	8	49	15
	299	0	69	3	1	69	2	0	70	2	0	72	0	5	62	5
	301	0	70	2	3	60	9	1	68	3	1	69	2	11	39	22
	302	0	71	1	1	69	2	5	65	2	0	70	2	4	52	16
	305	0	72	0	1	69	2	0	70	2	0	71	1	7	44	21
	306	0	72	0	1	71	0	1	70	1	2	67	3	1	70	1
	309	0	73	0	0	73	0	0	73	0	1	71	1	1	71	1
	310	0	72	1	0	72	1	0	71	2	2	69	2	6	51	16
313	1	70	2	0	71	2	4	66	3	1	69	3	7	52	14	
315	0	73	0	0	73	0	1	72	0	0	72	1	5	64	4	
316	1	72	0	0	73	0	1	71	1	0	70	3	1	72	0	
318	0	73	0	2	70	1	1	71	1	1	72	0	1	71	1	
320	39	26	8	18	43	12	26	35	12	1	60	12	3	55	15	
322	0	73	0	0	72	1	2	71	0	1	70	2	1	70	2	
325	1	72	0	0	73	0	0	73	0	0	69	4	1	69	3	

	番号	誤り			適切性			表現			授業で教えて		
		ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
薬学 実践 問題	326	1	70	1	0	70	2	4	67	1	2	58	12
	327	0	72	1	0	72	1	1	72	0	0	68	5
	328	0	73	0	0	73	0	1	72	0	1	69	3
	329	0	73	0	0	73	0	0	73	0	1	69	3
	330	0	73	0	2	70	1	2	71	0	2	58	13
	331	1	71	1	1	69	3	6	65	2	1	67	5
	332	0	73	0	0	72	1	0	73	0	1	71	1
	333	0	72	1	1	70	2	1	72	0	0	68	5
	334	2	69	1	2	68	2	4	67	1	3	58	11
	335	0	72	2	0	71	2	5	66	2	1	70	2

	番号	誤り			適切性			表現			授業で教えて		
		ある	ない	わからない	不適切	適切	わからない	不適切	適切	わからない	いない	いる	一部 いない
薬学 実践 問題	336	0	69	2	3	63	5	2	66	3	6	53	12
	337	0	72	0	0	66	6	1	69	2	12	38	22
	338	0	72	0	0	72	0	0	70	2	3	67	2
	339	0	71	1	0	71	1	0	71	1	1	71	0
	340	0	71	1	0	71	1	0	71	1	2	70	0
	341	0	68	1	0	67	2	2	65	2	4	52	13
	342	5	58	6	1	62	6	10	45	14	7	48	14
	343	0	67	2	1	65	3	1	66	2	7	52	10
	344	0	69	0	0	67	2	0	66	3	5	52	12
	345	0	68	1	1	68	0	1	66	2	1	68	0

(注) 数字は回答大学数である。